

新聞についてすぐくハカがる事が  
できました。阪神、淡路、大雨を以て  
で新聞の総局などが「んたさ  
んせい」以来、何も印刷ができて  
かた。ただ、京都新聞が見事  
なチー、4ワークで助けにくれた  
おかげで印刷できて、本当に  
良かった。なと田貝いしました。

△印がけなし記事さま。くのはおひ  
たし、自由になりたいとは思ちたが  
たけとげ、この世にめかしてしるは  
なと思ひました。この世か  
神の新聞とつてな、この世か  
思ひました。しかも女  
しんしといとほか、な  
成しました。

川について、より考えが深まった。

例えば、亡くなられた方についてや、地じんへの怖さ、切なさなどが、です。

川の事はよく分かっていたつもりだったが、  
たけし知りつくせないほど悲しい  
が、おくが深いと思おう。

川を忘れないうちに、次の世代へと  
ひきついでいきたい。

實際の新聞記者、しかもえろい人が  
言の本北小宮校にいら。しゃった。びろいらと  
しん災(阪神淡路大両辰火を心)な  
このことを教ええくれ。建物には倒  
れし山崩壊するれ、建物内はじち。じちにな  
るわじいら大赤々なことがある。火火も  
起ったが消火された。でもやはり危険な  
所に行かなければならぬ。可能性はさもない  
のちから記者という仕事は危険を思つ。

新聞の授業をうけてあらためて  
阪神あちじ大雨辰火のおそろしさ  
があつたし、神戸新聞が危機  
になつたこともあつた。さらに  
記者が命がけでも取材すると  
いうことがあがり、いろいろ知る  
ことができたのでよかつた。

私たちは地人々を、実に、さいに体験した  
ことがないけれど、地しんの怖さがよく  
わかった。本当に地しんにあ、た人の  
話をきくと、私がよく地しんのことを  
しれていないんだな、と思、た。そして、  
地人々に対しての備えが必要不欠  
決、だ、な、と思、た。家族ではなしあ、  
たことはなく、まだ備えができて  
いないため、これからも備えをし、か  
りしていきな、ら、い。

ぼくらはみなで阪神淡路大しんやい  
を調べていただけると本当に被害に  
あった人の話はもっとおもしろくして  
すばい説明してくれたい。新聞記者は  
すばい大変例えは深夜に事件や大事  
なことがあったら多量に取材してほしいと  
いけない。そんなふうい大変なといふ  
話をすばい聞いておもしろかた。

みんなといっしょに調べていたけど、  
しうなかつたこともたくさん知った。

例えば新聞記者の人は夜になにか  
あったらすぐまがったりがじになつた  
らそこにも行ったりした。じっさいに  
じしんがあつてまどがガラスがわれそ  
うだよのに「写真真実」をとってから  
たずねると仕事も大切と分かった。



ぼんぼんさんさいをけいけんしたことが  
なかったのでもわしくは知らな  
かった。けど話を聞いてしんさ  
いはすごくわいと思っただし、  
こわい田舎をしている人がい  
ることを知った。これからしん  
さいのことについても調べたり  
したい。

話を聞いて、刑よりじしんが  
こわくな。た。じしんがこわく  
な。たから家でじしんにそなえ  
ようと四心。た。神戸新聞の人が  
きてくれ。話をしてくれ。と  
こもうれしかった。